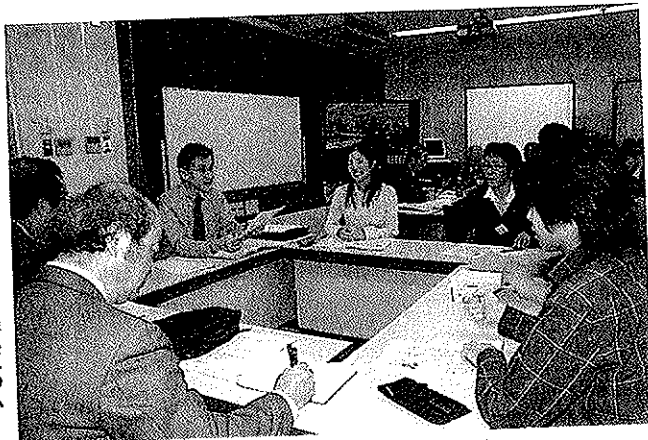


学生とOBがエネルギー問題について意見を交わした「グループ対話」



原子力学会

シニアと学生、ひざ詰めで

学生と電力会社、メーカー(SNW、竹内哲夫会
カ、研究機関の原子力長)と学生連絡会が共催
分野のOBがエネルギーした。地球温暖化や石油
をめぐる問題について話 資源の枯渇懸念など多く
し合う「学生とシニアの のテーマがあるエネルギー
対話 in 東京」がこの 問題について、学生と
ほど、東京・本郷の東京 シニア層の相互理解を促
大学浅野キャンパスで開 進し、エネ教育での実践
かれた。双方から約40人 などにつなげるねらい。
が集まり、グループ対話 学生とOBの対話は05年
を通じてエネルギー安全 度から始めたが、SNW
保障からエネ教育のあり と学生連絡会が共催する
方に至るまで幅広く意見 今の形態になってからは
を交換した。

日本原子力学会の組織
であるシニアネットワーク

東大で40人、エネ問題議論

としての原子力の役割に
について講演。続いて参加
者が6グループに分か
れ、テーマを自由に設定
して2時間、ひざ詰めで
議論した。

議論の後は各グループ
の代表者が話し合った内
容を発表。特にエネルギー
ー安保や原子力の役割に
関する知識が一般に浸透
していないとの現状認識
から、正しく理解しても
らうための教育活動が重
要との意見が多かった。

「子どもや学校、地域へ
OBの対話は12月14日に
東北大学で行われる。

最後に元日立製作所常
務の荒井利治氏が講評。
「子どものころからエネ
ルギー問題について考え
る力、知恵を付けること
は必要だが、それには科
学的知識がベースになけ
ればならない。結局は教
育がポイントになる」と
総括した。次回の学生と